



いよいよ梅雨に入りました。例年より梅雨の期間が短いと予想されていますが、しばらく湿度が高いじめじめした日が続きます。子どもたちは汗をかくことが多く補聴器や人工内耳が故障しやすいので、この機会にお手入れの仕方を確認しましょう。また、各校で工夫されている教室環境のご配慮についてもお伝えします。

補聴器、人工内耳の

故障の原因とは?!



◆湿気、水滴 による故障

水がつきやすい場所や湿度の高い場所での使用は、故障につながる可能性があります。間違えて洗濯機で洗ってしまった、シャワーを浴びてしまった、などに気をつけましょう。防水性能に優れたものも増えてきていますが、湿気や水滴には注意が必要です。

◆汗 による故障

汗をかきやすい季節では、耳の後ろに流れる汗や髪の毛から滴る汗が補聴器等の本体の中にしみこみ、内部が腐食することがあります。

◆結露 による故障

冬になると耳の中と外の補聴器等の本体との温度差によって結露が生じ、故障の原因になることがあります。

他にも、耳垢による故障、落下などの衝撃による故障、劣化や寿命による故障、静電気による故障などもあります。日常の適切な管理によって、故障を防ぐことができます。

ポイント1 「汗や湿気は大敵だ！」



汗をかいたときは、自身の汗だけでなく、必ず機器も乾いた布やティッシュでふき取りましょう。防水加工のものでも電池蓋の隙間から汗が侵入することもありますので、しっかりと乾燥させることが大切です。また、補聴器に汗対策用のカバーをかけることで汗の侵入を防ぐ方法もあります。綿素材の場合、長時間つけっぱなしにすると汗を吸ったカバーの湿気で補聴器が故障することもありますので、注意が必要です。

また、手に砂がついたまま機器に触れない、日焼け止めを塗るときは外す、水辺に近づくときは水がかからないように注意する、急な雨に備える、などにも気をつけましょう。

一日の終わりには必ず乾燥剤の入ったケースへ



乾燥剤の入ったケースに入れることで補聴器内の湿気を取り除くことができます。使用後は補聴器をきれいに拭き、耳垢を取り除いてケースに入れて保管しましょう。また、使用しないときは必ずケースに入れましょう。ズボンのポケットにそのまま入れてしまうことなどがないようにしてください。



<保管時のチェックポイント>

- ◆電池は必ず外し、乾燥ケースには入れず、+を下にして置いておきましょう。
- ◆ケース内を乾燥させるため、写真のように電池蓋を開けたままにしましょう。
- ◆乾燥剤（シリカゲル）は定期的に交換しましょう。目安は2～3か月ごとになります。

ポイント2 「毎日ピカピカ大作戦！」

補聴器や人工内耳には汗や皮脂、耳垢などが付着しています。また、チューブやイヤモールドの中に汚れ（耳垢など）が詰まってしまうと、きこえが悪くなってしまっただけでなく、故障の原因にもなります。使用後はしっかりお掃除しましょう。

～ 補聴器、チューブ、イヤモールド ～

補聴器についた汚れ、汗、水分などは乾いた柔らかい布で拭き取りましょう。



電池室の中や電極部分も掃除をしましょう。綿棒で湿気を拭き取り、さびを防止しましょう。



特殊な仕様の場合を除き、チューブとイヤモールドは水洗いができます。水やぬるま湯で汚れを洗い流しましょう。外側の水分はティッシュ等でふき取り、内部の水はブローアーで押し出しましょう。

ドライヤーで乾かす場合は必ず冷風で行いましょう。



ブラシで掃除をする場合はブラシを下にして、汚れがイヤモールド内に落ちないようにしましょう。



～ 人工内耳 ～

- ・機械についている汚れ、汗、水分などを乾いた布で拭き取ります。
 - ・送信コイルに詰まったほこり等をブラシなどで払います。
 - ・機種によってはマイクカバーも点検しましょう。
- * 乾燥ケースの使用は機種によります。



* 「何か変だな?」「おかしいな?」と感じたときは、早めに販売店等に相談しましょう。

教室環境の工夫

座席の位置

小中学校では、前から2～3列目がよいとされています。それは、先生の声がききとりやすく、最前列の友だちの様子を見ながら行動できるからです。また、中央かやや窓側の席だと逆光にならず黒板が見やすいとされています。お子さんの左右の聴力差によっては、きこえやすい方の耳が先生に近い位置の方がよい場合もあります。なお、ロジャー等を使用しているお子さんは、座席の選択肢が増えます。本人と相談してよりよい席を考えていくことが大切です。

椅子や机を引きずる時の音



補聴機器を使用しているお子さんにとって椅子や机を引きずる「ギーギー」という音は、不快に感じやすいです。椅子や机の脚に少し工夫をすることで、この不快な音を軽減することが可能です。左の写真のように、椅子や机の脚に軍手を切って巻き付けたり、右の写真のように市販の「脚キャップ」を活用したりして、雑音を抑えている学校があります。



ドアや窓

換気のため教室の窓やドアを開けることは多いですが、ドアの外から隣のクラスの声やリコーダーの音色、窓の外から体育をしている音声など様々な音が漏れきこえてきます。大切な説明や指示をする時、ドアや窓を閉めて雑音を遮っていただけるとありがたいです。

